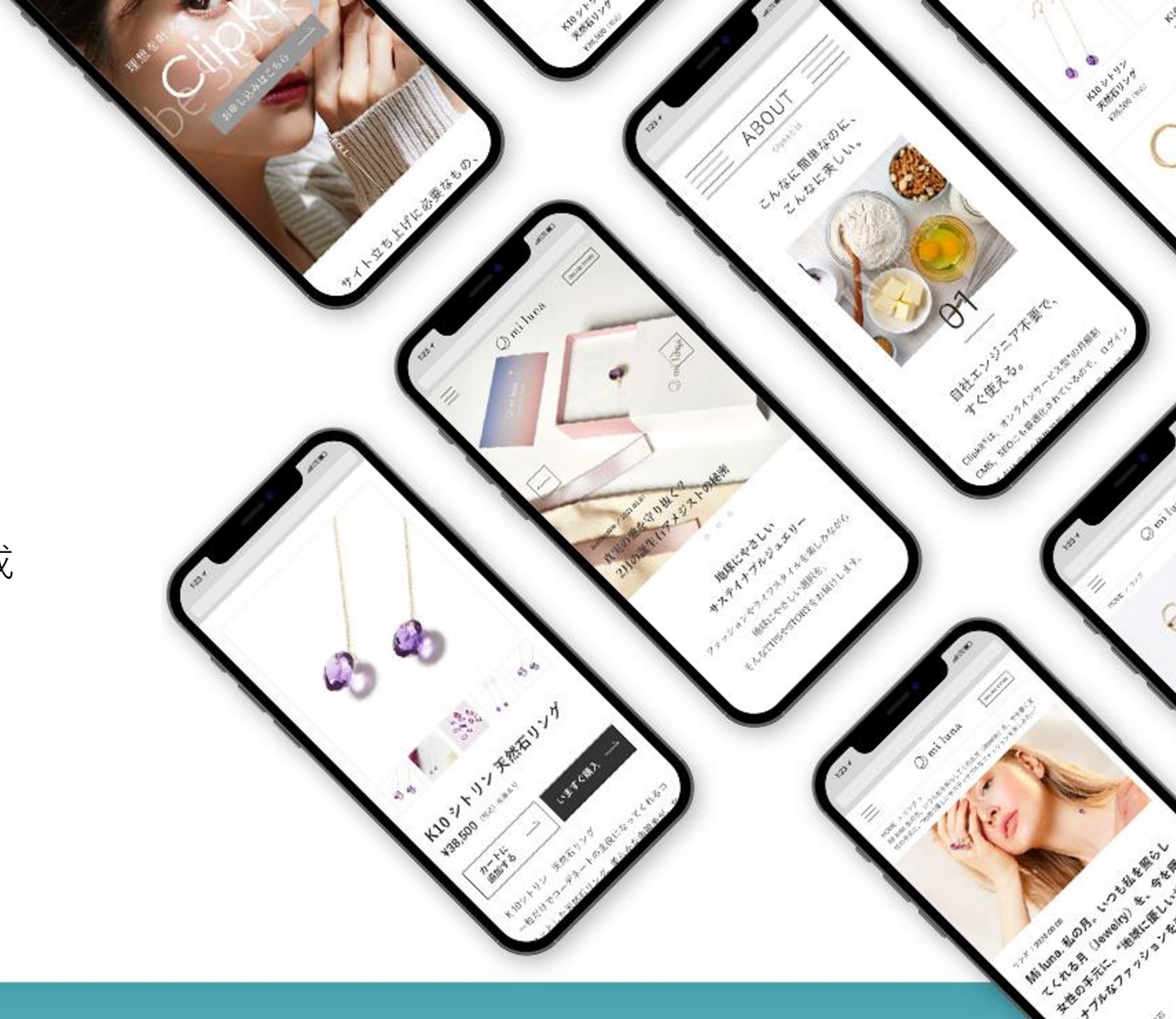


2022年4月1日作成



Google アナリティクス 4 (GA4)
導入と併せて最初にしておくべき初期設定

Smartmedia

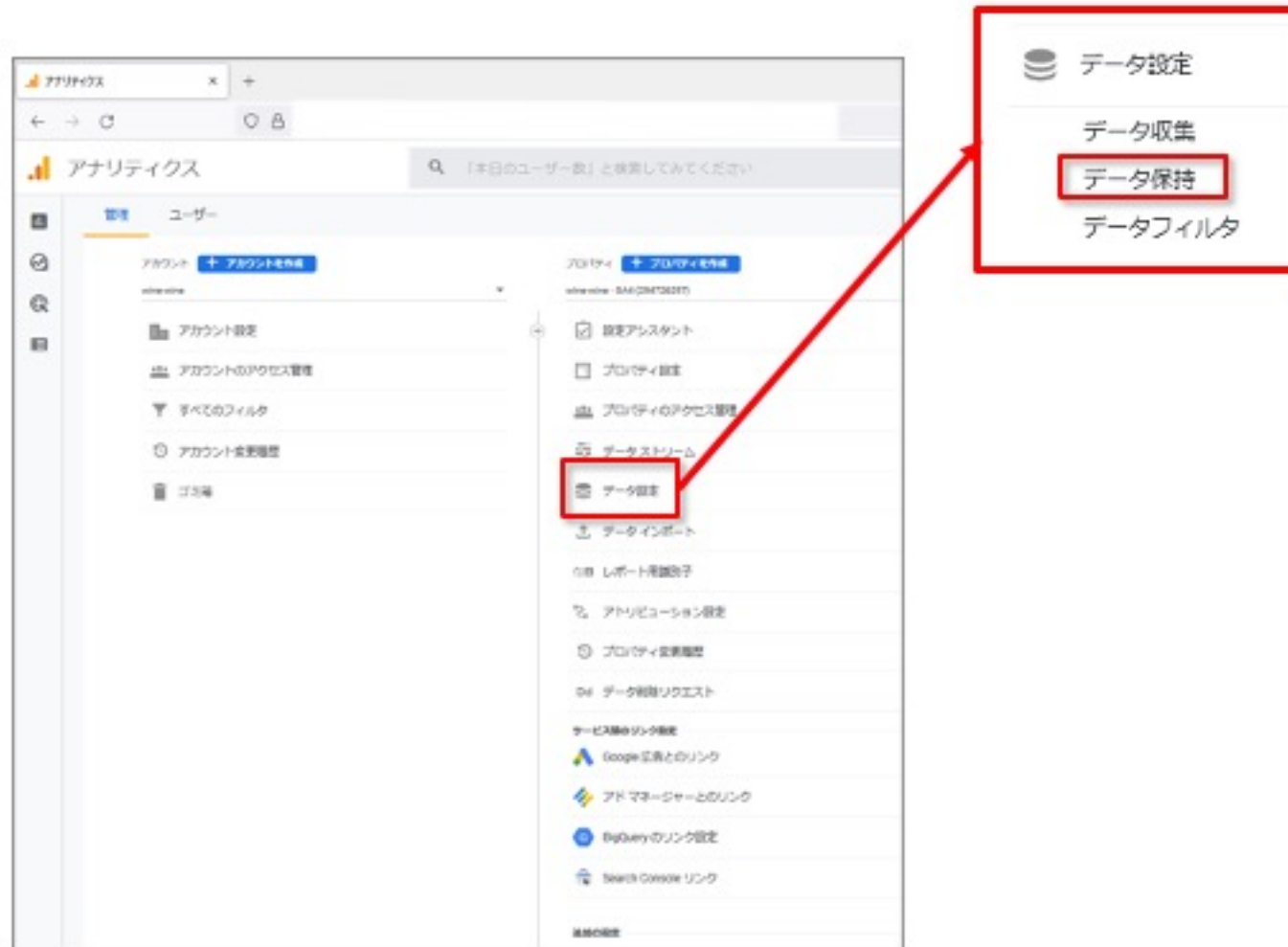
最初にしておくべき設定(1)

データ保持期間の変更

GA4では、データの保持期間は最大**14**か月です。
初期設定では**2**か月ですので、**14**か月に変更しましょう。

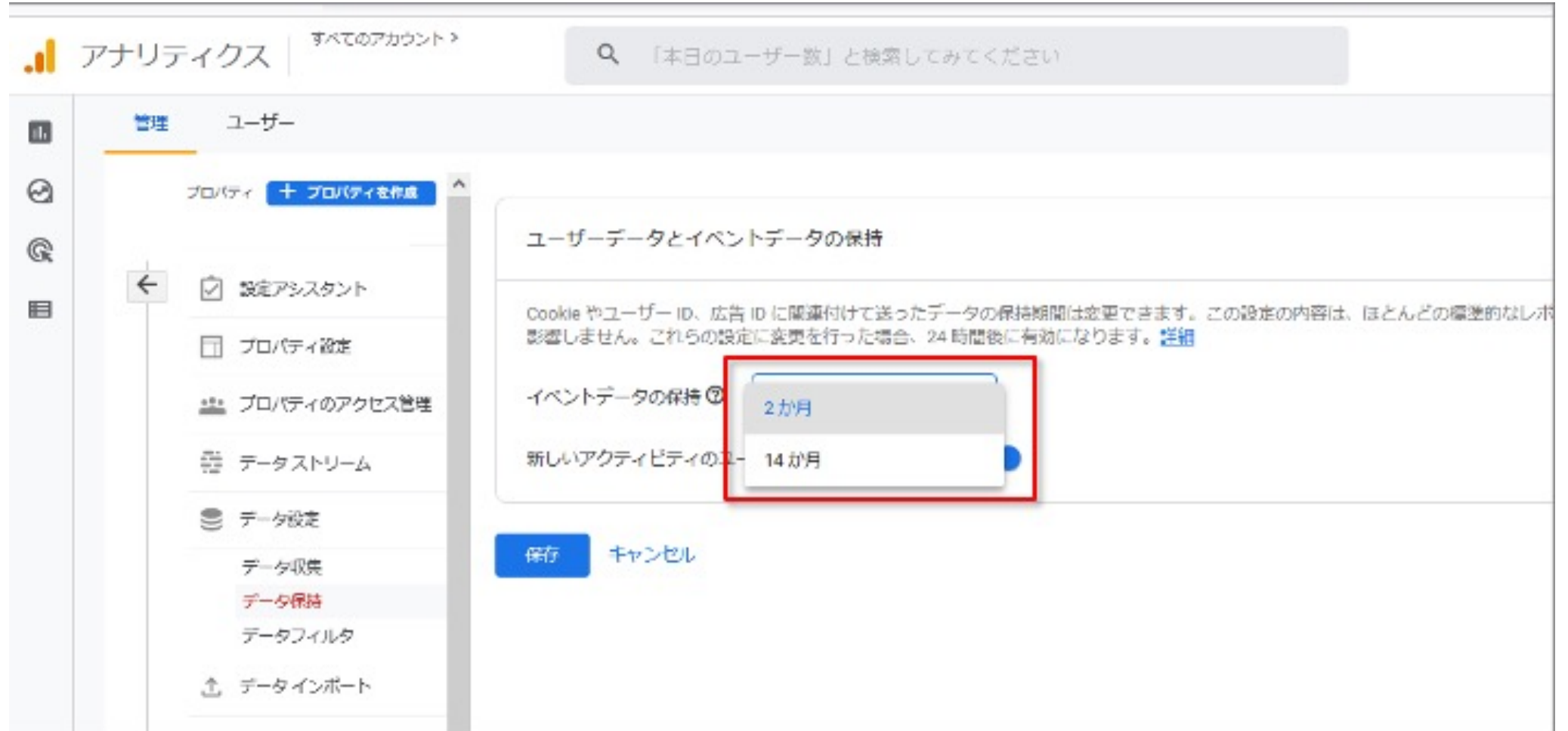
最初にしておくべき設定(1)データ保持期間の変更

管理>プロパティ列>データ設定>データ保持 で変更します。



最初にしておくべき設定(1)データ保持期間の変更

「14か月」に変更。



最初にしておくべき設定(2)

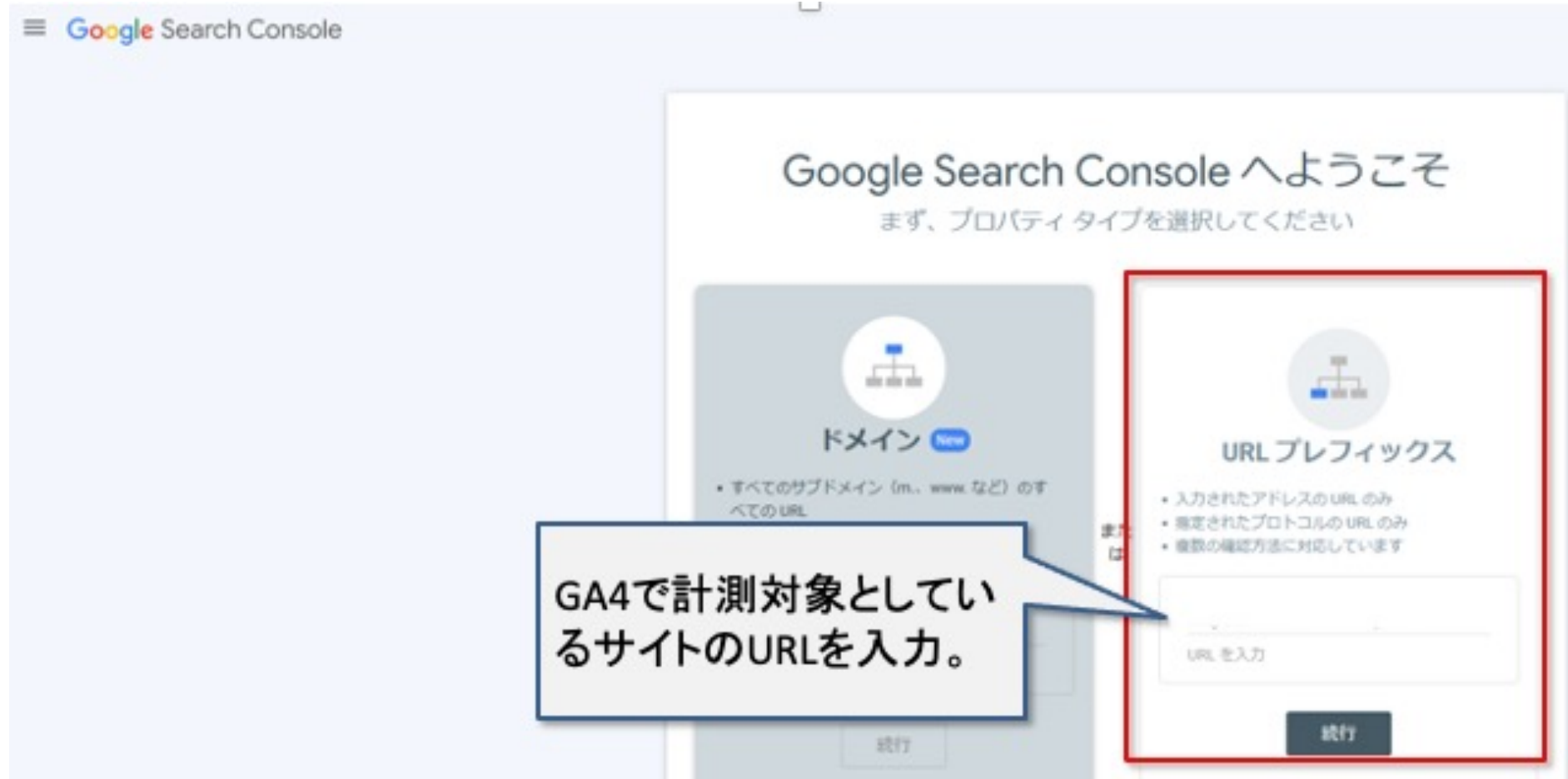
Googleサーチコンソールとの連携

Googleサーチコンソールとは、
Googleで検索されたキーワードデータを取得できるツールです。

Googleから提供されているサービスで、
GA4と連携させることができ、より便利に使用できます。

最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

<https://search.google.com/search-console/welcome?hl=JA>にアクセスして、GA4を設定したのと同じGoogleアカウントでログインしてください。
Google Search Console > URL プレフィックス



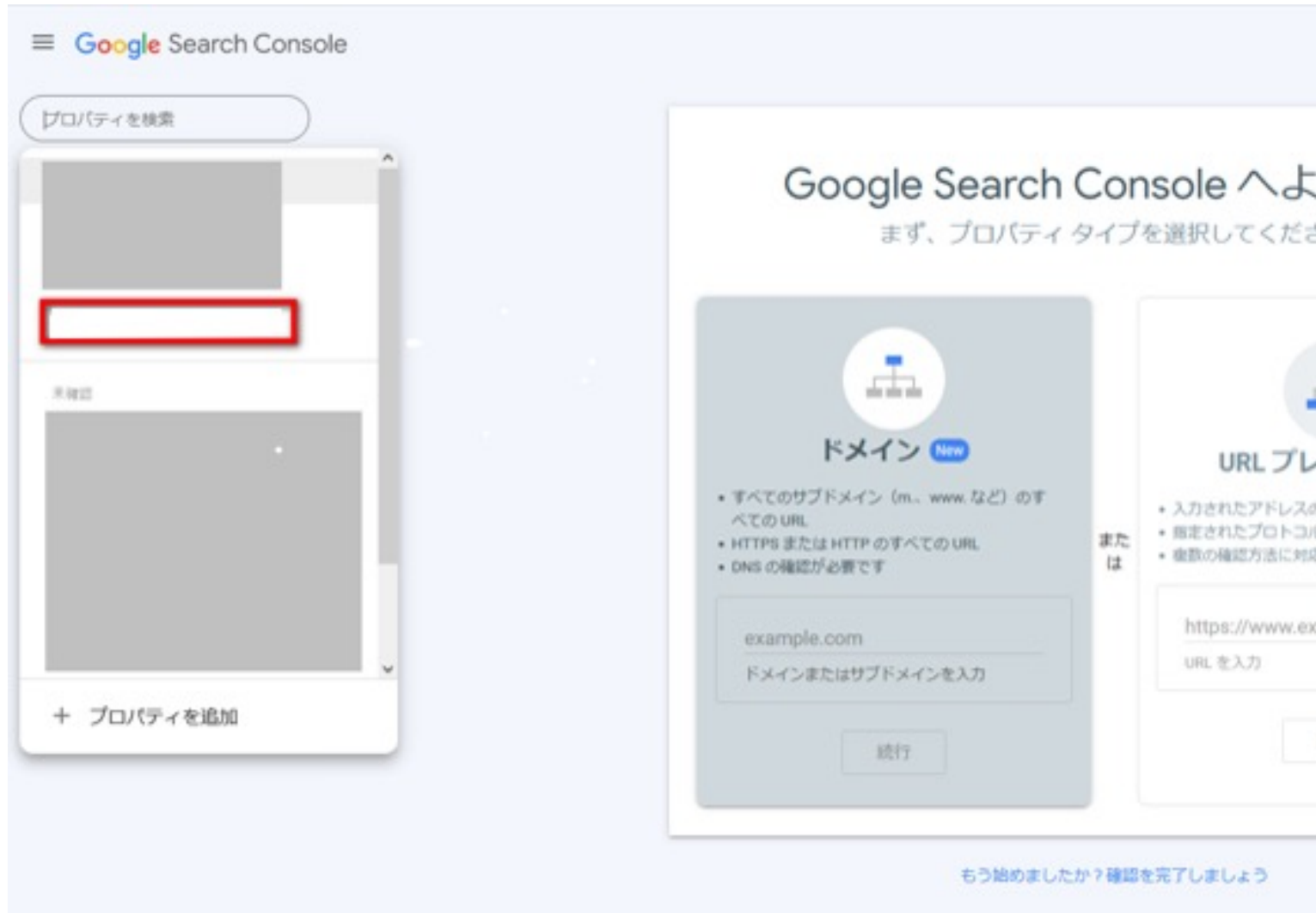
最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

同じGoogle アカウントでGTMが入っていれば、
所有権（サイトを管理している本人が操作をしていることの確認）は自動確認されます。



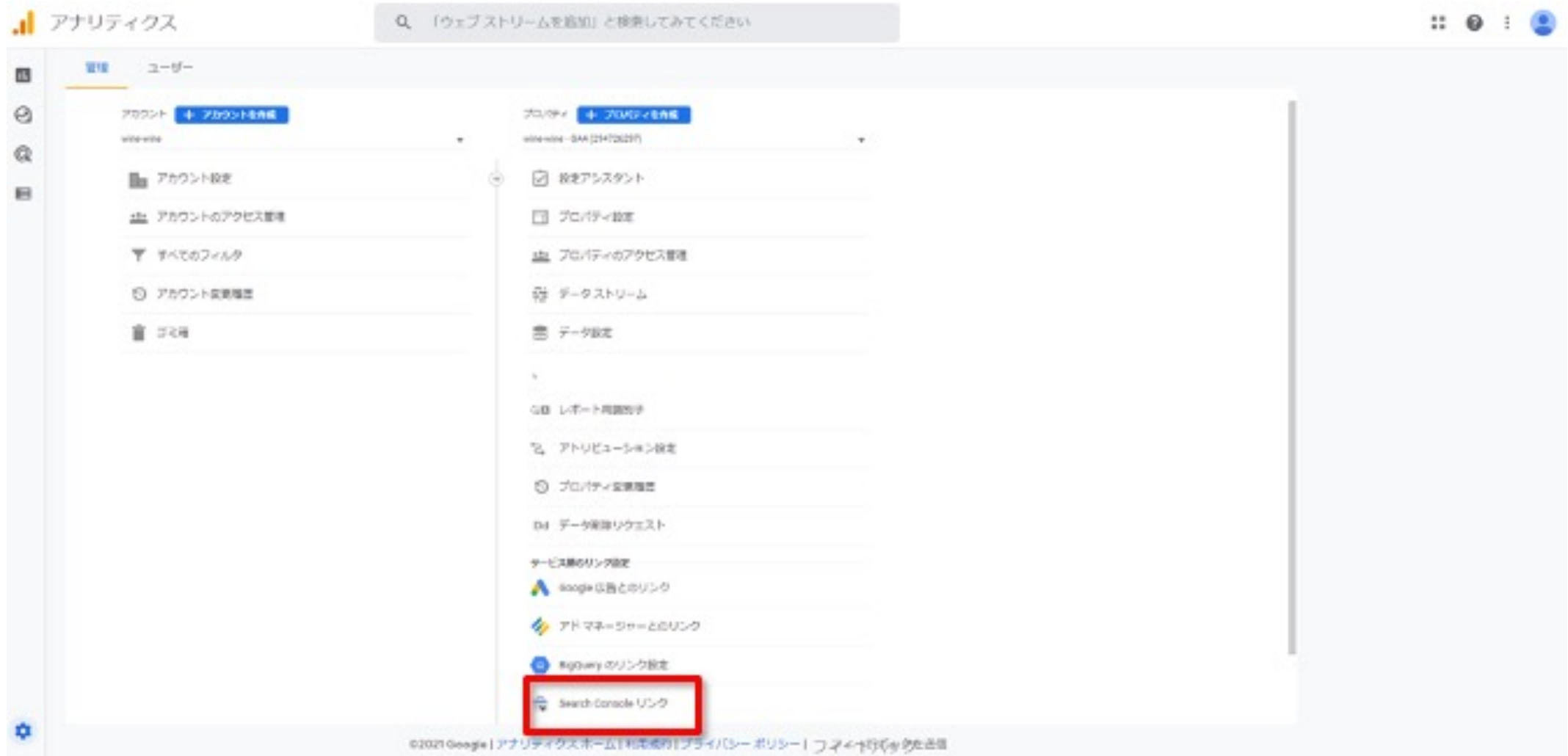
最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

赤枠の中にドメインが表示されますので、これで承認されたことが確認できます。



最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

次にGA4の画面に戻って設定を続けます。管理 > プロパティ > Search Console リンク



最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

次の画面で青いリンクボタンを選択し、下の画面に進むのでアカウントを選択をクリックします。

× Search Console とのリンクを作成する

リンクの設定

アナリティクス プロパティを Search Console プロパティにリンクすると、サービス間でデータをやり取りできるようになります。Search Console プロパティから Google アナリティクスにエクスポートしたデータには、Google アナリティクスの利用規約が適用されます。Google アナリティクスから Search Console にインポートしたデータには、Search Console の利用規約が適用されます。このリンクを作成すると、お客様のメールアドレスが記録され、この Google アナリティクス プロパティや、リンク先の Search Console プロパティの承認ユーザーに表示されることがあります。[詳細](#)

When you associate a Search Console property with a Google Analytics web property, Search Console data is enabled for all profiles associated with that web property. As a result, anybody with access to that Google Analytics property may be able to see the data for the linked Search Console property.

- 1 Search Console プロパティを選択
- 2 ウェブストリームを選択する
- 3 確認して送信

管理する Search Console プロパティにリンク

次へ

アカウントを選択

最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

先ほど、Googleサーチコンソールで設定したドメインにチェックを入れて確認をクリックします。
次の画面で次へを選択し、進んでください。



最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

ウェブストリームが表示されますので、選択をクリックしましょう。

× Search Console とのリンクを作成する

リンクの設定

アナリティクス プロパティを Search Console プロパティにリンクすると、サービス間でデータをやり取りできるようになります。Search Console プロパティから Google アナリティクスにエクスポートしたデータには、Google アナリティクスの利用規約が適用されます。Google アナリティクスから Search Console にインポートしたデータには、Search Console の利用規約が適用されます。このリンクを作成すると、お客様のメールアドレスが記録され、この Google アナリティクス プロパティや、リンク先の Search Console プロパティの承認ユーザーに表示されることがあります。[詳細](#)

When you associate a Search Console property with a Google Analytics web property, Search Console data is enabled for all profiles associated with that web property. As a result, anybody with access to that Google Analytics property may be able to see the data for the linked Search Console property.

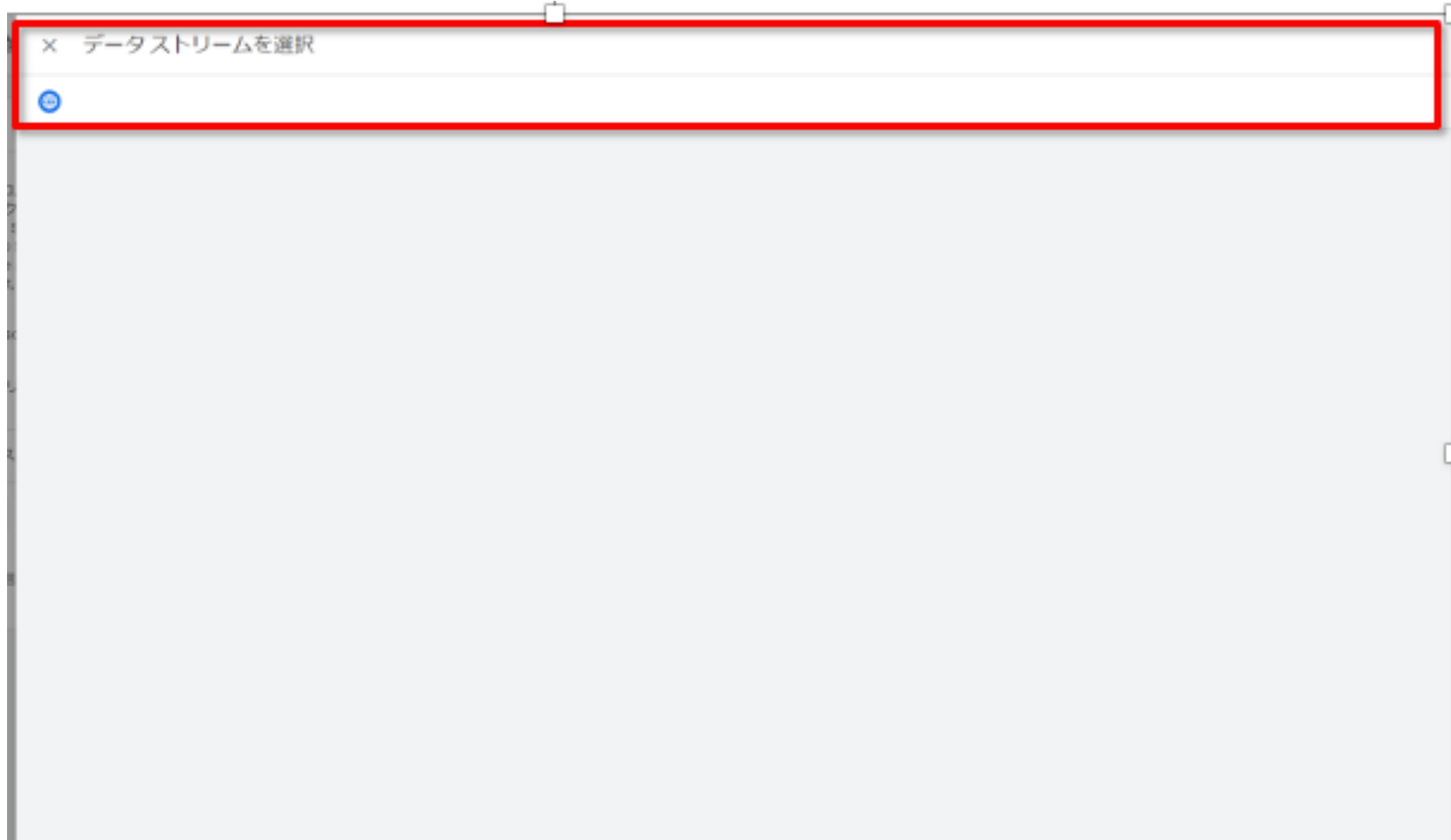
- Search Console プロパティを選択
- ウェブ ストリームを選択する
- 確認して送信

選択

前へ 次へ

最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

データストリームを選択し次の画面に進み、次へを選択しましょう。



最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

次へを選択し、次の画面で送信をクリックしましょう。
次の画面で「リンク作成済み」となればOKです。

× Search Console とのリンクを作成する

リンクの設定

アナリティクス プロパティを Search Console プロパティにリンクすると、サービス間でデータをやり取りできるようになります。Search Console プロパティから Google アナリティクスにエクスポートしたデータには、Google アナリティクスの利用規約が適用されます。Google アナリティクスから Search Console にインポートしたデータには、Search Console の利用規約が適用されます。このリンクを作成すると、お客様のメールアドレスが記録され、この Google アナリティクス プロパティや、リンク先の Search Console プロパティの承認ユーザーに表示されることがあります。[詳細](#)

When you associate a Search Console property with a Google Analytics web property, Search Console data is enabled for all profiles associated with that web property. As a result, anybody with access to that Google Analytics property may be able to see the data for the linked Search Console property.

- Search Console プロパティを選択
- ウェブストリームを選択する
- 確認して送信

ウェブストリーム



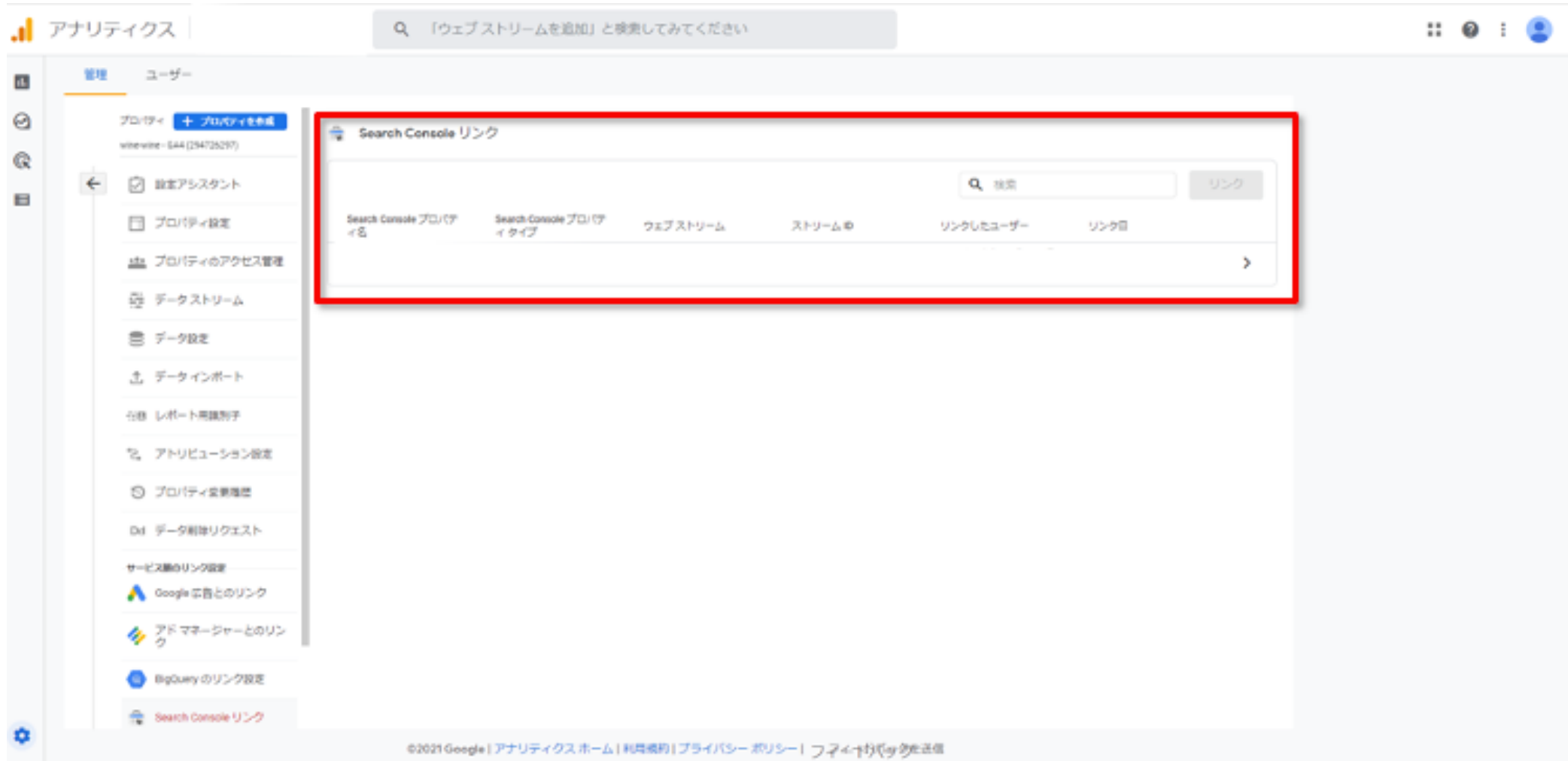
前へ

次へ

最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

設定が完了した後に、下記の手順でリンクしていることを確認できます。

管理 > プロパティ > Search Console リンク



最初にしておくべき設定(2)Googleサーチコンソールとの連携

これで設定は完了です。

GA4のレポート画面からサーチコンソールが収集した検索キーワードデータを見ることができるようになります。

ライフサイクル>集客>集客サマリー で「**Google** のオーガニック検索クエリ」をクリックすると、検索キーワードの詳細なレポートを見ることができます。

最初にしておくべき設定(3)

内部トラフィックの除外

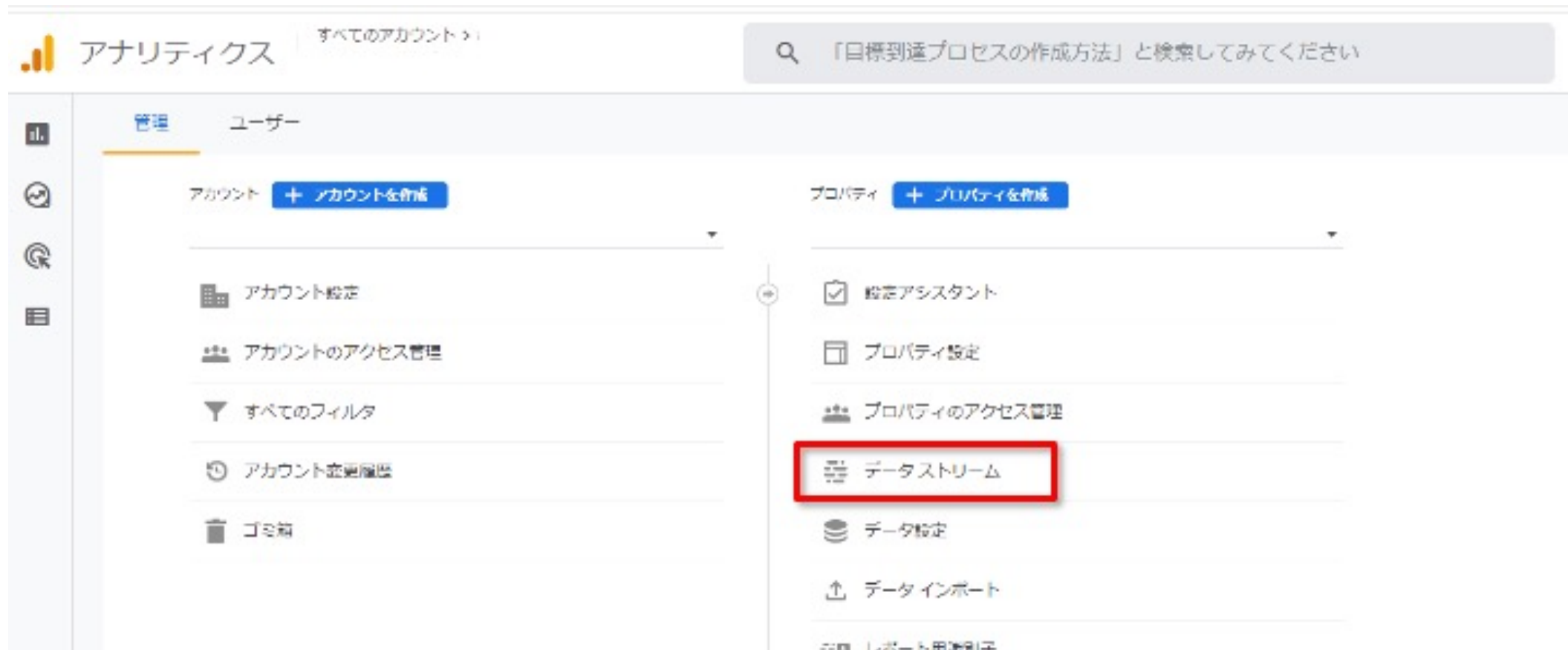
この設定は、社内アクセスのトラフィックを除外した上で分析したい場合のみ設定を推奨します。

ユーザーのトラフィックをより正確に把握することができます。

最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

内部トラフィックを除外するには、内部トラフィックに相当する IP アドレス（または IP アドレスの範囲）を定義したルールを作成する必要があります。

管理 > プロパティ列 > データストリーム



最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

内部トラフィックを定義するウェブデータ ストリームを選択します
(この機能はアプリデータ ストリームには対応していません)。



最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

追加の設定 > タグ付けの詳細設定 をクリックします。

× ウェブストリームの詳細

The screenshot displays the 'Web Stream Details' page in Google Analytics. At the top, there's a header with 'Stream URL', 'Stream Name', and 'Measurement'. Below this, a section shows 'Stream ID' (3234933773) and 'Status' (過去 48 時間にトラフィックデータを受信しています). A '拡張計測機能' (Enhanced Measurement) section is visible with a toggle switch. The '測定中' (Measuring) section lists 'ページビュー数' (Pageviews), 'スクロール数' (Scrolls), and '離脱クリック' (Engagement clicks). The 'タグ設定手順' (Tagging Setup) section provides instructions on how to add tags. The '追加の設定' (Additional Settings) section includes links for '接続済みのサイトタグ' (Connected Site Tags), 'Measurement Protocol API Secret', and 'タグ付けの詳細設定' (Tagging Details). The 'タグ付けの詳細設定' link is highlighted with a red box.

Stream URL: Stream Name: Measurement:

Stream ID: 3234933773 Status: 過去 48 時間にトラフィックデータを受信しています。 [詳細](#)

拡張計測機能

ページビューの標準測定に加え、サイトのコンテンツとのインタラクションを自動的に測定します。リンクや埋め込み動画などのページ上の要素のデータは、関連するイベントとともに収集される場合があります。個人を特定できる情報が Google に送信されないように注意する必要があります。 [詳細](#)

測定中: [ページビュー数](#) [スクロール数](#) [離脱クリック](#) [他 3 個](#)

タグ設定手順

次のいずれかの方法を使用して、データ収集を開始します。

[新しいページ上のタグを追加する](#) [既存のページ上のタグを使用する](#)

[グローバルサイトタグ \(gtag.js\)](#) ウェブサイト作成ツールや、CMS でホストされるサイトをご使用の場合、このタグを設定プロパティでデータの表示を開始するには、アナリティクス タグをウェブサイトに追加します。

[Google タグ マネージャー](#) ウェブインターフェースからタグを追加したり管理したりすることで、Google アナリティクスなど Google の各種ツールや Google 以外のツールにデータを送信します。

追加の設定

[接続済みのサイトタグ](#) このストリームのページ上のグローバルサイトタグを使用して、追加のプロパティまたはサービスのタグを読み込みます。 [詳細](#) 1 個を接続済み >

[Measurement Protocol API Secret](#) [ページ](#) API Secret を作成すれば、Measurement Protocol でこのストリームに送信する追加のイベントを有効にできます。 [詳細](#) >

[タグ付けの詳細設定](#) クライアントサイドのタグ付けの動作 (クロスドメイン リンク、内部トラフィック、イベントの変更など) を設定します >

最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

「内部トラフィックの定義」をクリックします。



最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

内部トラフィックルールの作成を選択します。

× 内部トラフィックの定義

内部トラフィックルール

作成

ルールはまだ作成されていません。[作成]をクリックして、作成してください。詳細

次の画面で「マッチタイプ」を選択し、「値」を入力します。

最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

通常はデフォルトの「internal」のままにしてください。

ルール名には、明確にどの場所を設定したのか分かるように記載しましょう。
traffic_type_の値はデフォルトのまま「internal」のままです問題ありません。

通常は
「IPアドレスが次と等しい」の
選択肢を使うことがほとんどですが
「CIDR 表記」については、
[公式ヘルプ](#)をご参照ください

× 内部トラフィックルールの作成

作成

内部として識別するトラフィックを定義します。一致する IP アドレスの外部からのトラフィックには、「traffic_type」パラメータが選択した値とともに付加されます。データフィルタ機能を使用して、「internal」と表示されるイベントデータをフィルタすることもできます（任意）。[詳細](#)

設定

ルール名 ①

traffic_type の値 ②

internal

IP アドレス ③

マッチタイプ

IP アドレスが範囲内 (CIDR 表記)

IP アドレスが次と等しい

IP アドレスが次から始まる

IP アドレスが次で終わる

IP アドレスに含む

IP アドレスが範囲内 (CIDR 表記)

例: 192.0.2.0/24

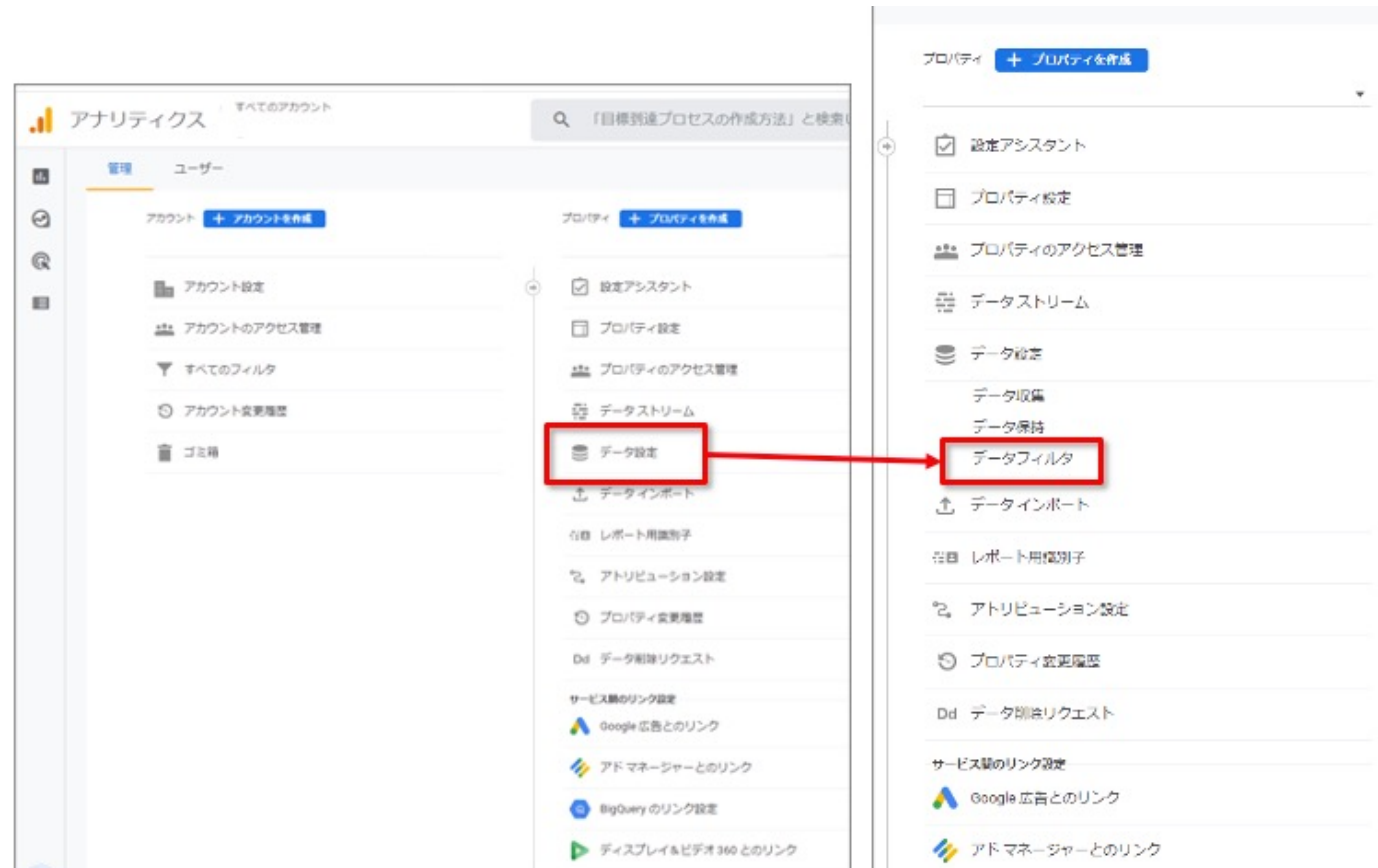
IP アドレスを確認

最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

情報を入力したら「作成」をクリックしましょう。

「内部トラフィックルール」が設定されました。
これで終了ではなく、次にフィルタ設定を有効にする必要があります。

データ設定 > データフィルター



最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

「Internal Traffic」をクリックします。

「フィルタの状態」を「テスト」から「有効」に変更して、「保存」をクリックしましょう。

The screenshot shows a web interface titled 'データフィルタの編集' (Edit Data Filter). In the top right corner, there is a blue '保存' (Save) button highlighted with a red rectangle. The main content area is divided into two sections: 'フィルタの詳細' (Filter Details) and 'フィルタの状態' (Filter Status).

フィルタの詳細

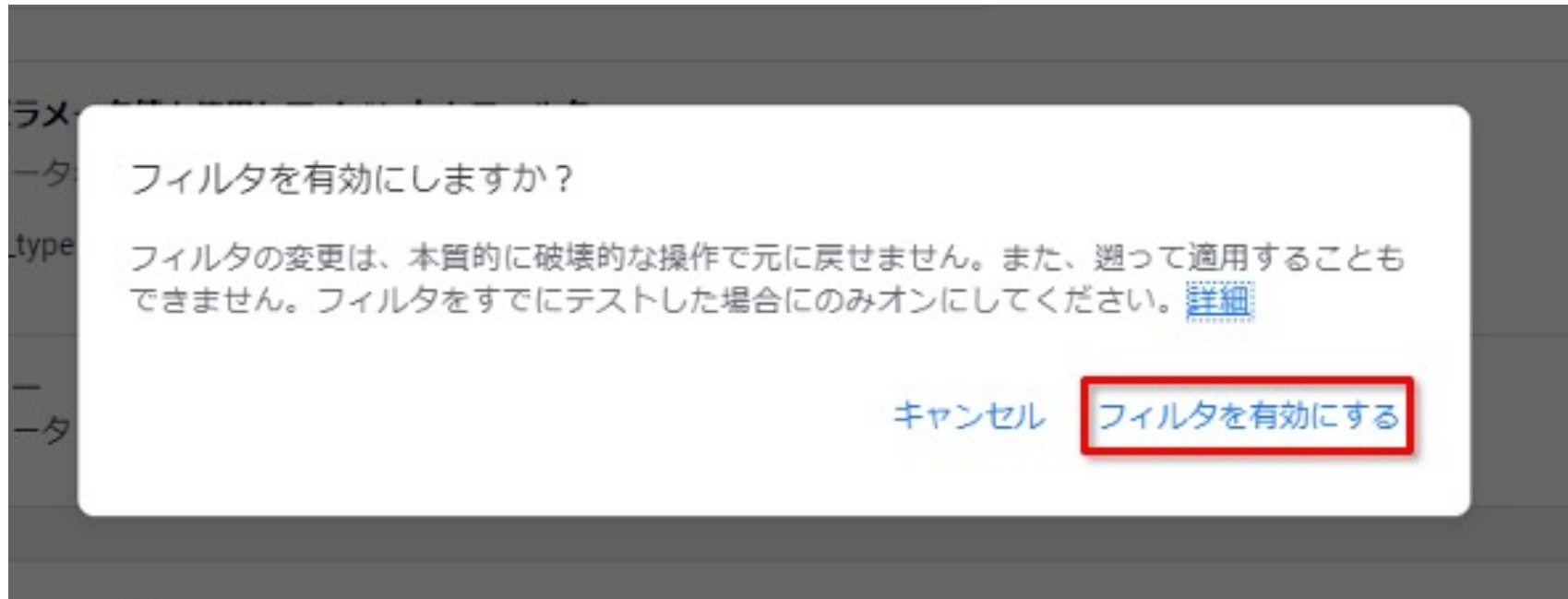
- データフィルタ名: Internal Traffic
- フィルタ オペレーション②: 除外 (Excluded)
- 次のパラメータ値を使用してイベントをフィルタ:
 - パラメータ名: traffic_type
 - パラメータ値: Internal
- リマリー: パラメータ traffic_type の値が Internal に完全に一致する場合は、イベントを除外します。

フィルタの状態

- ☒ テスト: このフィルタは評価され、一致するデータのディメンションが「テスト データフィルタ名」になります。このディメンションはレポートで使用できます。
- ☐ 有効: このフィルタは評価され、一致するデータに適用されます。一致するデータは処理から除外されます。 (This option is highlighted with a red rectangle)
- ☐ 無効: このフィルタは評価されません。

最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

フィルタを有効にしようとすると、下記のような確認画面が表示されます。



最初にしておくべき設定(3)内部トラフィックの除外

「テスト」から「有効」に変更になりました。

The image displays two screenshots of the Smartmedia Analytics web interface, illustrating a configuration change. Both screenshots show the 'Data Filters' (データフィルタ) section for a specific property. A red arrow points from the 'Test' status in the top screenshot to the 'Valid' status in the bottom screenshot.

Top Screenshot: The 'Internal Traffic' (内部トラフィック) filter is currently set to 'Test' (テスト).

名前	フィルタの種類	オペレーション	現在の状態
Internal Traffic	内部トラフィック	除外	テスト

Bottom Screenshot: The 'Internal Traffic' (内部トラフィック) filter has been updated to 'Valid' (有効).

名前	フィルタの種類	オペレーション	現在の状態
Internal Traffic	内部トラフィック	除外	有効

最初にしておくべき設定(4)

Googleシグナル

異なるデバイスやブラウザからアクセスされた場合でも、同一ユーザーと認識して計測を行う機能です。

通常は異なったデバイスやブラウザからアクセスされた場合、異なるユーザーとして計測されます。

しかし「Googleシグナル」を使うことで、同一ユーザーとして計測することが可能です。

最初にしておくべき設定(4)

Googleシグナル

ただし、同一ユーザーとして計測されるのは、

- ・ ユーザーがGoogleのアカウントにログインした状態
- ・ 広告のカスタマイズを目的とした関連付けに同意している状態

この2つの条件に該当する状態でサイトを訪問した時に限りますので注意が必要です。

最初にしておくべき設定(4)Googleシグナル

管理 > プロパティ列 > データ設定 > データ収集 で

「Google シグナルのデータ収集を有効にする」の「利用を開始する」をクリック。



最初にしておくべき設定(4)Googleシグナル

「続行」をクリックします。



最初にしておくべき設定(4)Googleシグナル

「有効にする」をクリックしましょう。



最初にしておくべき設定(4)Googleシグナル

「Google シグナル」のデータ収集が有効になりました。

The screenshot shows the Google Analytics 'Settings' page for a property. The left sidebar contains a menu with options like 'Property', 'Data Streams', 'Data Settings', and 'Data Collection'. The 'Data Collection' section is expanded, showing 'Data Collection' (highlighted in red), 'Data Retention', and 'Data Filters'. The main content area shows the 'Google Signals' toggle switch turned on (blue). A red box highlights this toggle. Below the toggle, there is a blue information banner and a detailed explanation of Google Signals. At the bottom, there are two expandable sections: 'Ad Customization' and 'User Data Collection Confirmation'.

アナリティクス すべてのアカウント

「Google 広告にリンク」と検索してみてください

管理 ユーザー

プロパティ + プロパティを作成

gs4-quick-and-easy.com - GA4 (302974)

← 設定アシスタント

プロパティ設定

プロパティのアクセス管理

データストリーム

データ設定

データ収集

データ保持

データフィルタ

データインポート

レポート用識別子

アトリビューション設定

プロパティ変更履歴

データ削除リクエスト

サービスリンクの設定

Google シグナルのデータ収集を有効にする ☒

Firebase の管理画面で行われた Google シグナルの設定に対する変更は、Google アナリティクスの変更履歴には表示されません。

レポートや分析には、プロパティに十分なトラフィックがあるこの設定で収集されたデータのみが反映されます。詳細

Google シグナルを有効にすると、Google アナリティクスの標準実装で収集されるデータに加え、お客様のトラフィックに関するデータ収集も可能になり、クロスデバイスのオーディエンスやインサイトなどの追加機能が使えるようになります。

この機能を有効にすると、Google アナリティクスで訪問データが収集され、そのデータがログイン ユーザーのアカウントの Google 情報と関連付けられます（ただし、関連付けの対象となるのは、広告のカスタマイズを目的としたこうした関連付けに同意しているユーザーのみです）。この Google 情報には、エンドユーザーの位置情報、検索履歴、YouTube の利用履歴、Google のパートナー サイトで収集されたデータなどが含まれる可能性があります。この Google 情報は、お客様のユーザーのクロスデバイス行動について、集約および匿名化されたインサイトを提供するために使われます。お客様はこの機能を有効にすることで、[Google の広告向けの機能に関するポリシー](#)（デリケートなカテゴリに関する規約など）を遵守すること、かかる関連付けについてご自身がエンドユーザーに対して必要なプライバシーの開示を行って、関連付けを行う権限をエンドユーザーから取得すること、エンドユーザーが [マイアクティビティ](#) を通じてかかるデータを閲覧、削除する場合があることに同意するものとなります。

注: 上の設定を切り替えて有効にすると、お客様のトラフィックに関するデータも Google アナリティクスで自動的に収集されるようになります。Google シグナルによるデータ収集を希望されない場合は、上の設定を無効にしたり、Google アナリティクス タグにおいて、広告向けの機能によるデータ収集を [手動で有効](#) にしていないことをご確認ください。

広告のカスタマイズを許可する詳細設定

ユーザーデータ収集の確認

最初にしておくべき設定(5)

クロスドメイン設定

クロスドメイン測定を使用すると、
ドメインをまたいだユーザー行動を、同一ユーザーによるものとして
正確に識別できます。

最初にしておくべき設定(5)

クロスドメイン設定

別ドメインへのリンクがクリックされると、
通常は「測定機能の強化」によって「離脱クリック イベント」※注
として処理されますが、
リンク先ドメインがクロスドメイン測定の対象として登録されている
場合はこの処理から除外されます。

※注：「離脱クリック イベント」＝ユーザーが現在のドメインから移動するリンクをクリックするたびに記録されます。

最初にしておくべき設定(5)クロスドメイン設定

GA4のクロスドメイン設定は、GA4の管理画面上で完結します。

「管理 > データ ストリーム > ウェブ」で該当の「データ ストリーム」を選択します。



最初にしておくべき設定(5)クロスドメイン設定

「タグ付けの詳細設定」を選択しましょう。



最初にしておくべき設定(5)クロスドメイン設定

「ドメインの設定」をクリックします。

× タグ付けの詳細設定

イベントの設定

-  イベントの変更
受信イベントとパラメータを変更する >
-  イベントの作成
既存のイベントに基づいて新しいイベントを作成します >
-  ユニバーサルアナリティクス イベントの収集
ウェブサイトでページ内イベント（GA カスタム イベント、イベントが引き起こされたタイミング、ユニバーサル アナリティクスからの例外呼び出し）が発生するたびにイベントが収集されます ☐

タグの設定

-  **ドメインの設定**
クロスドメイン測定に含めるドメインのリストを指定します >
-  内部トラフィックの定義
内部として識別するトラフィックの IP アドレスを定義します >
-  除外する参照のリスト
参照とは見なさないトラフィックのドメインを指定します >
-  セッションのタイムアウトを調整する
セッションの最長時間を設定します >

最初にしておくべき設定(5)クロスドメイン設定

「条件を追加」をクリックします。



× ドメインの設定

⚠ ここで行う変更は、他の Google アナリティクス プロパティに影響を与える可能性があります。 [詳細](#)

このタグを使用するすべてのドメインを指定してください。このリストで、クロスドメイン測定を有効にできます。さらに、拡張測定機能を使用している場合は、離脱クリックイベントをトリガーしない、サイト上のリンクを監視します。 [詳細](#)

設定

次の条件に一致するドメインを含める

[条件を追加](#)

最初にしておくべき設定(5)クロスドメイン設定

入力欄に、トラッキングするドメインを入力しましょう。

× ドメインの設定

⚠️ ここで行う変更は、他の Google アナリティクス プロパティに影響を与える可能性があります。 [詳細](#)

このタグを使用するすべてのドメインを指定してください。このリストで、クロスドメイン測定を有効にできます。さらに、拡張計測機能を使用している場合は、離脱クリックイベントをトリガーしない、サイト上のリンクを定義します。 [詳細](#)

設定

次の条件に一致するドメインを含める

マッチタイプ	ドメイン
先頭が一致	<input type="text"/>

[条件を追加](#)

最初にしておくべき設定(5)クロスドメイン設定

右上の「保存」をクリックします。



最初にしておくべき設定(5)クロスドメイン設定

設定が終わった状態です。

×

ドメインの設定

保存

⚠

ここで行う変更は、他の Google アナリティクス プロパティに影響を与える可能性があります。[詳細](#)

このタグを使用するすべてのドメインを指定してください。このリストで、クロスドメイン追跡を有効にできます。さらに、タグ計測機能を使用している場合は、ページクリックイベントをトリガーしない、サイト上のリンクを定義します。[詳細](#)

設定

次の条件に一致するドメインを定める

マッチタイプ	ドメイン
先頭が一致	<input type="text"/>

Copyright ©Smart media Inc.

Smartmedia

最初にしておくべき設定(6)

参照元除外設定

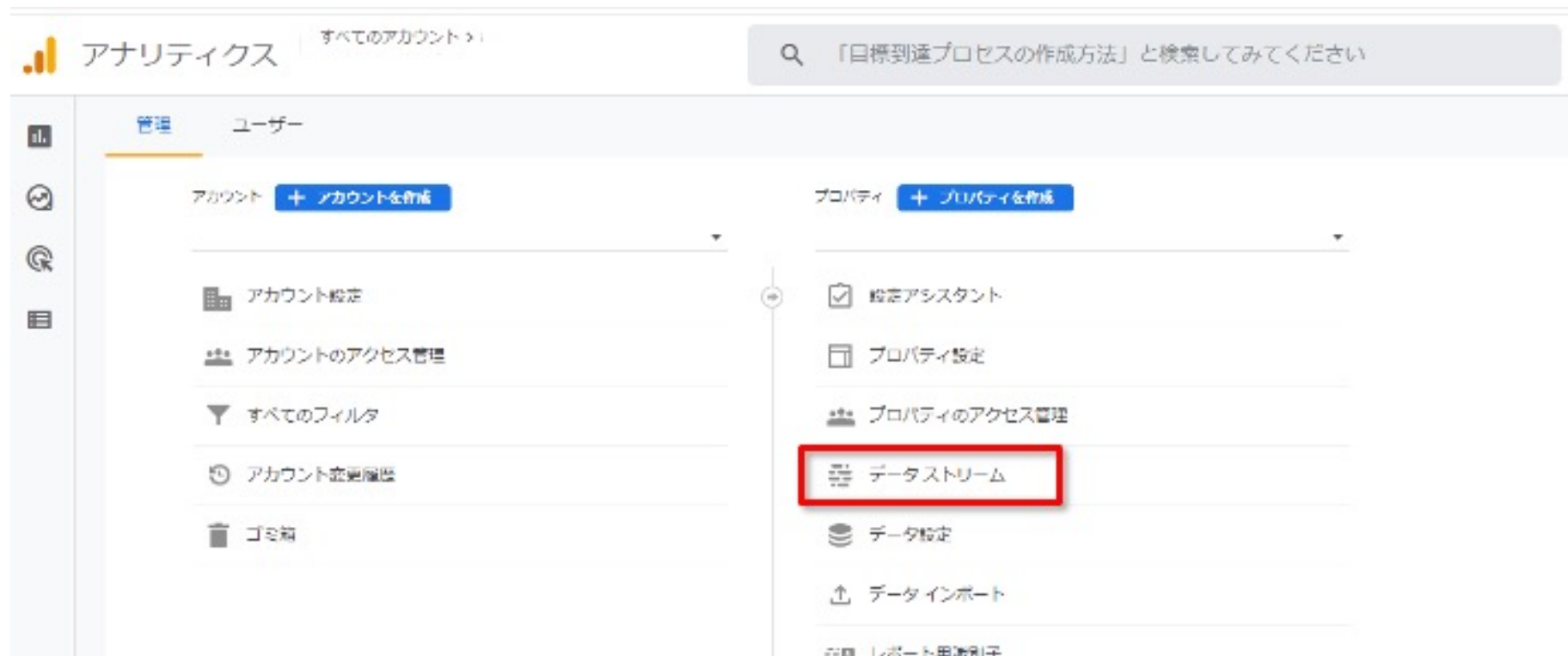
Clipkit For ECをはじめ、途中で決済サービスを挟むような場合、設定しておくことを推奨します。

GA4はセッションの途中で参照元が変わった場合、セッションの参照元は変わりません。

しかし、イベントの参照元は変わりますので、参照元除外設定により、参照元を引き継げるようにしましょう。

最初にしておくべき設定(6)参照元除外設定

管理 > プロパティ列 > データストリーム > ウェブ



最初にしておくべき設定(6)参照元除外設定

追加の設定 > 「タグ付けの詳細設定」 をクリックします。



最初にしておくべき設定(6)参照元除外設定

「除外する参照のリスト」をクリックします。



最初にしておくべき設定(6)参照元除外設定

除外するドメインを入力して「保存」をクリックします。

The screenshot shows a dialog box titled '除外する参照のリスト' (List of Referrers to Exclude). In the top right corner, the '保存' (Save) button is highlighted with a red rectangle. Below the title bar, there is a text instruction: 'パラメータ「ignore_referrer」を以下の条件に該当するトラフィックに追加します。' (Add the parameter 'ignore_referrer' to the traffic that meets the following conditions). The main section is titled '設定' (Settings) and contains the instruction: 'トラフィックソースとしての次のいずれかの条件に一致する参照を無視' (Ignore referrals that match any of the following conditions as traffic sources). A red rectangle highlights the 'マッチタイプ' (Match Type) dropdown menu, which is currently set to '参照ドメインが次を含む' (Referral domain contains the next). A red arrow points from this dropdown to a detailed view of the dropdown options shown below. The options are: '参照ドメインが次を含む' (selected), '参照ドメインが次で始まる' (Referral domain starts with the next), '参照ドメインが次で終わる' (Referral domain ends with the next), '参照ドメインが次と完全に一致' (Referral domain exactly matches the next), and '参照ドメインが次の正規表現に一致' (Referral domain matches the regular expression of the next). A '条件を追加' (Add Condition) button is located below the match type selection.

以上で、除外するドメインが設定できます。

最後に

以上でGA4の導入と並行して設定すべき項目の紹介は終了です。
より上手にGA4を使いこなすために、ぜひ設定してみましょう。

上記の手順は、お客様の方でより簡単に設定できるようヘルプとして公開していますが、
有償対応にてサポートセンターで設定代行の対応をすることも可能です。

必要のある方は、お問い合わせくださいませ。

support-clipkit@sma-media.com